研修先：University of Sydney, Northern Clinical School, Royal North Shore Hospital, Hand Surgery

研修期間；2017年1月16日から2017年2月12日

氏名：魚住翔

研修内容・感想

私は，シドニー大学・ロイヤルノースショア病院のHand Surgeryにて4週間研修させていただきました。

**渡航前の手続き**

シドニー大学のelective placementへの申込みは例年6月1日から始まります。他の大学とは違って（？）エレクティブ枠は早いもの順なので，行きたい科がある場合は早めに準備することをおすすめします。世界的にワイドオープンなこと，オーストラリア国内の学生も同じ枠なことから，病院や科によっては早々に枠が埋まっていました。

申込みに必要な，大学からの推薦状をお願いする時点で，TOEFL88点かIELTS6.5が必要です。自分の場合はTOEFLの申込み・受験が遅れた上に，結果が出るまでタイムラグがあったりするのでスコアが出たのが7月上旬で，それからすぐに国際交流室に連絡したりして7月中旬にようやく申込みをすることができました。この時点で，いちばん人気なRoyal North Shore Hospitalは結構埋まっていて，空いている科から選ぶことになりました。申し込んでから3週間くらい後に，枠を押さえましたという旨の連絡が来るので，あとは過去の感想文を参考にしつつ要求されるとおりに書類を揃えていけば良いです。ワクチンを打ったり，無犯罪証明書をもらいに警察まで行ったりする必要があります。無犯罪証明書は渡航時に使用するパスポートが必要になる（無犯罪証明書にパスポートナンバーが入る）ので，渡航までに更新しようと思っている人は気をつけてください。自分は12月まで有効だったので，8月の旅行から帰ってから更新しようと思っていましたが，あわててパスポートセンターに行くことになりました…

家探しは本当に早くから動いたほうが良いです。シドニー大学のHPにホームステイ先の一覧がありますが，数が少ないせいか病院まで歩いていける距離の家はもちろん，結構遠い家であっても9月頭の時点で埋まっていました。仕方ないのでAirbnbで家探ししましたが，ホームステイに限らず，部屋をまるまる借りたりもできたりするなど結構なバリエーションあるので便利だったと思います。実際に行ってみると電車もバスも結構使い勝手がいいので距離自体は遠くてもどうとでもなりますが，外科系は特に朝早いのでその分早起きする必要が有ることには気をつけましょう。あと，バスを頼りにしていると夜遅くは本数少なかったりすることもありますので，どちらかと言えば電車のほうが便利です。

航空券については実習の前後にオーストラリアを見て回るならカンタスが便利だと思いますが，細かいことは詳しい人に助けを求めた方が良いです。これも予定が決まり次第早めに手配しましょう。

**病院実習**

研修内容としては，毎日朝7時から入院している患者さんの回診に参加し，8時からは外来もしくは手術の好きな方を見学して良いとのことでした。初日に外来，2日目に手術を見学したのですが，手術中に行われる内容自体は日本の手術室と基本的に同様だったこと，手術よりも外来の方が指導を受けやすいと感じたことから大抵の日は外来の見学をさせていただきました。

オーストラリアの医療制度として，イギリス系のシステムがベースにあります。つまり，まず最初にGP（総合診療医）の診察を受けた上で専門医に紹介される，という制度がきちんと機能しています。そのため，基本的にロイヤルノースショア病院の外来に来る新規の患者は，GPに紹介された患者のみ，それ以外では過去に手術を受けたフォローアップ，もしくはGPに紹介された患者でした。このように，救急搬送という状況以外は，まずGPにかかってから，紹介されて専門医にかかるという流れが出来ているのでRoyal North Shore Hospitalに来る患者は基本的に予約をしている人のみという形になります。そのせいか，外来での診療はゆったりと行われていたように感じました。外来では，数人のregistrarが手分けして予診を取ったり，術後経過をチェックしたりして，気になる患者はsupervisorに相談するというスタイルで進めていました。Supervisorは，朝最初に1件手術をしてから外来へやって来て，順番に患者を診るという動き方をしているので，患者さんによっては結構長い時間待たされているようでした。

また，入院患者についても，ICUに入っているような人でなければ，plasterの取替や傷の様子を見たりする場合は外来スペースにて行っていたことは日本と違っていて印象的でした。ベッド上から動けないようならベッドごと病棟から運んでくる徹底ぶりには驚きでした。

外来に来る患者は曜日によっても違いますが，だいたい50人から70人ほどです。半数以上が外傷（orそのフォロー）の患者で，残りの大半は術後フォローアップ，数人が新患という内訳でした。理学療法士が5人以上いて，診察前に包帯を外したり，診察後にギプスを作ったりリハビリを指導したりするのは彼らの担当として，うまく医師と連携していました。患者を診察する合間に，医師から骨折の分類など教えていただいたりしました。

予定の手術として入るものは，手根管症候群に対する靱帯切開，ばね指に対する腱鞘切開あたりがほとんどでした。手術の性質上，短時間で終わるので1日に5件程度入っており，それであってもお昼過ぎに終わる日が大半でした。術前の入室・術後の退室に医師が付き添うわけではなく，担当の係りの人がベッドを運ぶからでしょうか，全体的に患者の入れ替えがスムーズなように感じました。術着が一番小さいサイズでもかなり大きくて，体格の違いを感じました。アジア系に限らず，勤めているドクターには小柄な人も少なくないのですが…

術前後の入院期間が短いことも印象的でした。基本的に予定の手術の人が入院するのは当日で，事前に入院することはないようです。術後の退院の時期については，手術の大きさにもよりますが，早い人であれば手術当日の夕方に，遅い人であってもよっぽどの理由がない限り翌日には退院という形でした。他の科でも比較的入退院のサイクルは早いようでしたので，オーストラリアではできるだけ短期間の入院とすることが当たり前のようです。その分，internが入院患者を把握するのは大変なようでした。ちょうど2月から新しい先生がinternとして来ていて，バタバタしていました。

医療制度の面でも違いがいろいろあって興味深かったです。オーストラリアには，公費負担制度があるので，パブリックな病院での自己負担はかなり抑えられています。病院にCashierはあるのですが，支払いをしている人はほぼ見かけませんでした。また，公費負担制度がある一方で，個々で医療保険に入ることによって，民間の医療機関も選べるようにしている人も多くいました。Royal North Shore Hospitalも，Royal North Shore Private Hospitalを併設していて，患者はpublicとして入る？privateとして入る？と聞かれていました。個人の加入する民間保険の種類にもよるとは思いますが，自己負担はどっちも0で，術者が違うと説明を受けている人もいました。

シドニー大学にエレクティブで来ていた学生同士の交流会もコーディネーターがセッティングしてくれており，世界各国の医学生と知り合うことも出来ました。参加者の出身国は，アメリカ，イギリス，ドイツ，オーストリア，スイス，中国，韓国あたりで，複数人が来ているのは東大くらいでした。各国での医療の話など，興味深い話をたくさんすることができました。

海外に行っても医学自体は変わらないので医学的知識という面では日本で実習していたほうがより効率的に学習できるとは思いますし，手続きが面倒だったりするなど良いことばかりではないですが，海外で留学するという意味では一番行きやすいタイミングだと思います。

休日は東大から行った人たちで全豪オープンを見に行ったり，ゴールドコーストに行ったりと遊んでいました。自分は行く前からすべての週末の予定を決めていきましたが（飛行機に乗るなら事前に準備したほうが良いです）留学生同士の交流会に来た人々と遊びに行くのもありだと思います。